

# 道徳の時間学習指導案

三次市立三良坂中学校

指導者 T 1

T 2

- 1 日 時 平成29年11月10日(金) 第2校時
- 2 学 年 第1学年 27名(男子10名, 女子17名)
- 3 場 所 中学校棟 1学年教室
- 4 主題名 郷土を愛し, 進んで郷土の発展に努める  
【内容項目 C 郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度】
- 5 ねらい 阿保さんが情熱をこめて作った「みらさか」の歌を三良坂の人たちが, 今も心に歌い継ぐ思いを考えることを通して, 先人に対する尊敬の念をもち, 地域の一員として郷土を愛することの大切さに気づき, 進んで郷土の発展に努めていこうとする道徳的実践意欲と態度を養う。
- 6 教材名 『みらさか』の歌に込めて」 出典【みらさか学園自作教材】

## 7 主題設定の理由

### ○主題観・価値観

本主題は, 「中学校学習指導要領」の特別の教科道徳編のC-(16), 「郷土の伝統と文化を大切にし, 社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め, 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し, 進んで郷土の発展に努めること」を基に設定した。

「郷土」とは, 自分の生まれ育った土地ないし地理的環境のことである。また, 「郷土」とは文化的な面を含み, 自らがその土地で育てられてきたことに伴う精神的なつながりがある場所を示している。三良坂町では過疎化, 少子高齢化が進んでおり, 生徒の中には都会に憧れる者もいるが, 地域社会は家庭や学校とともに重要な生活の場である。こうした郷土を保つためには, 郷土によって育まれてきた伝統と文化に触れ, その良さに気づき郷土に対する誇りや愛着をもつことや, 地域を支えてきた先人や高齢者など先達のお陰で今のこの暮らしがあることを知るにより, 尊敬や感謝の念といった心情を育むことが重要であり, 地域社会をより良いものに発展させていこうとする自覚が必要と考える。

中学生の段階においては, 自分が自分だけで存在していると考えがちであるが, 家族や先達によって自分が支えられていることを自覚させ, 郷土を愛し主体的に郷土と関わっていこうとする道徳的実践意欲と態度を育てる必要性を考え, 本主題を設定した。

### ○生徒観

本学級の生徒は, 小学校5年生より, 総合的な学習の時間において「三良坂つながり学習」を学習してきた。今年度は「三良坂つながり学習」の中で最高学年として, 小学校5・6年生をリードしながら, かつて三良坂町で盛んだった菊作りを通して, 三良坂町をもっと活性化させるために縦割り班ごとに学習を進めている。

今回, 事前アンケートを実施した。「自分は人の役に立とうとしている」の質問を5月と7月にしたところ5月には「当てはまる」と答えた生徒は100%であったのが, 7月には88.9%であった。数値において下がっているようである。また, 2「今住んでいる地域が好きだ」5月には88.9%, 7月には92.6%, 3「今住んでいる地域のために, 地域の行事などに参加している」5月には85.2%, 7月には92.6%となっている。

このことから、2・3の質問項目では数値が上がっている反面、1の質問項目では下がっている。そのため、2・3の質問項目と関連付けて1の質問項目も上げさせていきたいと考える。

#### ○教材観・指導観

本教材は、三良坂の発展のために阿保さんが、何度も何度も高石さんとやり取りを行い、「みらさか」という歌を完成させた後、レコード化し、地域に広めていく話である。「みらさか」は旧灰塚小学校閉校時や三次市と三良坂町が合併する時などに歌われた。阿保さんが郷土のために歌を作ることや郷土を大切に思い歌う郷土の人々の気持ちを通して、先人に対する尊敬の念をもち、地域の一員として郷土を愛することの大切さに気づき、進んで郷土の発展に努めていこうとする道徳的実践意欲と態度を養うことができる教材である。

導入で、小学校では卒業式、中学校では、平和祈念式典や地域での行事で歌っている「みらさか」について、誕生の経緯等を尋ねることにより、生徒が生まれるより前からある郷土の歌に対する興味・関心を引き出し、学習への動機づけとする。

展開では、事前学習で市町村合併、灰塚ダムの歴史等を学んだものを振り返り、中心発問を問うことで考える時間を十分に取りたい。中心発問では三良坂町の旗が降りるときに『みらさか』の歌を歌う人たちの思いを問う。そこで出た意見を問い直すことで、「故郷を大切にしたいという思い」「故郷を愛する気持ち」に留まらず、具体的にどういうことが故郷を大切にすることや故郷を愛することにつながるのかを考えさせ、「先人に対する尊敬の念をもち、地域の一員として郷土を愛することの大切さに気づき、進んで郷土の発展に努めていこうとする道徳的実践意欲と態度を養う。」というねらいに迫りたい。その際、グループトークで意見を交流させながら価値に気付かせたり、価値を深めさせたりしていきたい。

終末では、ゲストティーチャー阿保さんからのメッセージを聞いて将来にわたってどんな思いを大切に、ふるさと三良坂町と関わっていくかについて考えさせたい。

### 8 指導のポイント

#### (1) 小中9年間の発達段階における【郷土の伝統と文化の尊重・郷土を愛する態度】のとらえ

段階	学習指導要領(ねらい)	ポイント	児童・生徒の言葉
低学年	我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。	文化と生活に親しむ。愛着をもつ。	町のお祭りや行事が楽しみだな。町のおすすめの場所は、三良坂平和美術館です。
中学年	我が国や郷土の伝統と文化を大切に、国や郷土を愛する心をもつこと。	伝統と文化を大切に。愛する心をもつ。	三良坂の人たち、生活、自然や文化、それらはすべて、わたしたちのたから物。
高学年	我が国や郷土の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。	先人の努力を知る。	昔の人が大切にしてきた伝統や文化を自分たちの手で、受け継いでいきたい。
中学生	郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員の自覚を持って郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。	先人や高齢者に尊敬の念を深める。地域社会の一員の自覚をもつ。進んで郷土の発展に努める。	三良坂を愛し、大切にしながら今度は私たちの力で、地域に住む人たちと共に、地域社会をより良いものに発展させていきたい。

#### (2) 主体的に学び合う授業づくりについて

##### ○導入の工夫

- ・三良坂のイメージを問い、自由に考えさせる中で、本時への課題意識を持たせる。
- ・「みらさか」を歌った後、全国的にみても町独自に歌を制作し地域の行事毎に歌われることは、珍しいことであるということにふれ、教材の動機づけとする。

##### ○中心発問へのアプローチ

- ・みらさかの歌を作成する中で、阿保さんと高石さんとのやりとりや郷土を大切に思い歌う郷土の人々について考えることで三良坂の人たちが郷土を大切にしたい思いを引き出す。

○自分の生活へつなげる工夫

- ・中学1年生の一人として何ができるのかを問うことで郷土と自分との関わりについて考えさせる。

(3) 協働的に学び合う授業づくりについて

- ・グループワークで他者の意見と問い直しながら価値を深めさせる。
- ・全体交流時に意見と分類・整理しながら価値を見出していく。

## 9 評価

(1) 授業評価のためのルーブリック

<b>Hop</b>	<b>Step</b>	<b>Jump</b>
阿保さんが情熱をこめて作った「みらさか」の歌を三良坂の人たちが、今も心に歌い継ぐ思いについて考えることができる授業であった。	先人に対する尊敬の念をもち、地域の一員として郷土を愛することの大切さに気づくことができる授業であった。	進んで郷土の発展に努めていこうとする道徳的実践意欲と態度を養うことのできる授業であった。

(2) 自己評価のためのルーブリック

中学校

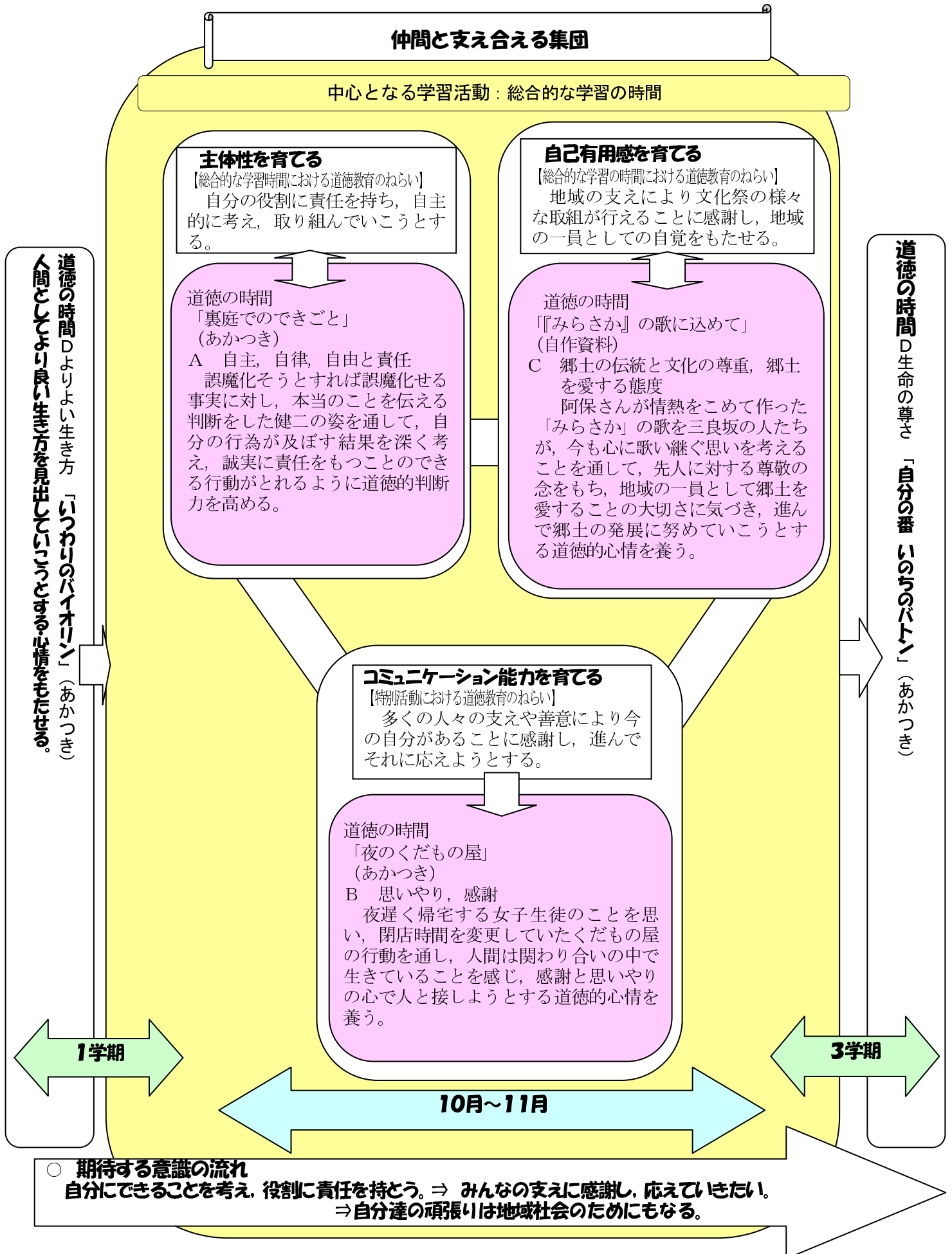
<b>レベル1</b>	<b>レベル2</b>	<b>レベル3</b>
【 】について、考えることができた。	【 】についての自分の考えを、他者に伝えることができた。	【 】についての考えを、友達の考えとの相違点をもとに、深めたり広げたりすることができた。

※【 】内には、本時の学習で学べた価値(キーワード)について、児童生徒が自己評価し記入する。

期待する児童生徒の記述(キーワード)

[みらさかの人への尊敬・みらさかの人への感謝・みらさかへの愛着・みらさかの発展・みらさかという地域の一員]

10 準備物 教材、道徳ノート、発問短冊、ホワイトボード、カセット、カセットデッキ、場面絵  
電子黒板



	学習活動	主な発問と予想される児童生徒の心の動き (○主な発問, ◎中心発問, ・予想される児童生徒の反応)	T 1	T 2	指導上の留意点 ☆評価の観点(評価方法)
導 入	1 『みらさか』を歌う。  2 『みらさか』の歌が作られた経緯を考える。	○『みらさか』を歌いましょう。 ※授業開始5分前に始める。  ○なぜ『みらさか』が作られたかについて事前アンケート結果を紹介する。 ・かっこいいから ・団結するため ・まとまるため ・三良坂町をアピールするため	発問	カセット  掲示 板書	『みらさか』の歌を歌う。
展 開	3 『みらさか』の歌にこめて」を聞いて考える。 (1) 市町村合併の意味について確認する。  (2) 「みらさか」ができるまで何度もやり取りした阿保さんの心情を考える。  (3) 三良坂町が終わるといふ気持ちを考える。 (個人→グループ→全体) 【かんがえる】 【問いをさがす】	○範読した内容と事前に学習した内容を簡単に確認する。  ○なぜ阿保さんは何度も高石さんとやり取りをしたのでしょうか。 ・納得のいくものにしたかったから。 ・三良坂の人の心に残る歌詞にしたかったから ・故郷を大切にしたい思いを歌詞に入れたかったから (補助発問) ○候補として出された案と今の歌詞とはどういう点が違うのでしょうか。 ・理想とする三良坂町 ・これからも続いていく三良坂町  ◎降りた町旗をぐっと握り、まっすぐ前を見つめて口ずさんだ阿保さんは何を考えていたのでしょうか。 ・悲しい。 ・三良坂が終わった。 ・三良坂を思う気持ち。 ・これからも三良坂町を愛したい。 ・故郷を大切にしたい (問い直し) ○なぜ悲しいか。なぜ愛おしいか。 ・故郷を愛する気持ちがあるから。 ・故郷を大切にしていたから。 ○三良坂を思う、故郷を大切にするとはどういうことだろう。 ・人と人とのつながりを大切にすること。 ・これまで三良坂町で生きてきた人たちの思いをつないでいくこと。 ・離れていても三良坂を忘れないでいること。 ・三良坂を心の支えとして頑張ること。 ・今まで三良坂を作ってきた人たちに感謝	範読  実態把握  発問 実態把握  発問 実態把握	提示  板書 実態把握  板書 実態把握	○双三郡から三次市というイメージがわくような図・三良坂町旗の写真を展示する。  ○候補として出された案と今の歌詞とを比較をさせる。  ○「平和の集い」や「みらさか文化祭」で実際に歌われていることを思い起こさせる。 ○グループワークの中で、他者の意見を問い直しながら価値を深めさせる。 ○全体交流時にグループで出てきた意見を分類しながら価値を見出ししていく。

		していきより発展させていくこと。			
終末	<p>4 「みらさか」をつくった阿保さんの現在の思いを聞く。</p> <p>5 自分の生活を振り返る。 (内省化) 学んだ価値について、自分の経験を振り返り、これからの自分に生かす思いを道徳ノートに記入する。 【みらいへのヒント】</p>	<p>○阿保さんの現在の思いを聞いてみましょう。</p> <p>○三良坂中学校 1 年生 27 人の一人として三良坂町のためにどのようにかかわっていくことがよいですか。 (繰り返し発問)</p> <p>○阿保さんはすごいですね。では自分たちはどうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元で祭りを盛り上げたい</li> <li>・野球を教えて恩返しをしたい</li> <li>・就職して地域に貢献したい</li> <li>・今後のつながり学習での活動について</li> <li>・遠くにいても地元を忘れない</li> </ul>	発問  発問 実態把握	板書 実態把握 カセット 繰り返し	<p>○歌づくりに尽力した阿保さんのメッセージを紹介する。</p> <p>☆「郷土愛、地域の一員としての自覚、郷土の発展」について、道徳的価値の自覚が深まっている。</p> <p>○「みらさか」の歌を聴きながら書かせる。</p> <p>※菊づくりとも関連させて終わる。</p>

### 13 板書計画

